

Turin's Tea Time



テュリンのティータイム

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。冷たい烏龍茶を飲みながら暑さを払う季節です。

今月のテーマはオーストラリアの「大きなモノ」です。「大きなモノ」(Big Things)とは、オーストラリアのユニークな特徴のひとつです。車で走っていると

色々な種類の巨大な像が見えます。巨大なくだもの、野菜、動物、道具など、各州には大きなモノがいっぱいあります。インターネットによると、オーストラリアの中には150以上の大きなモノがあるそうです。今回は、その中の一部を紹介します。



▲有名な The Big Merino。大きな牡羊のオブジェが、見る人の興味を引いています

今日から使える

ひとこと英会話

Lesson 21

とても楽しい様子を伝えるときに一言

"have a ball"

読み方 「ハブァ ボール」

意味 「とても楽しかった」

「ビーチは楽しかった？」

「彼女はすごく楽しんだ」

この「ボール」は玉ではなく、舞踏会という意味です。

(ボールルームのボールと同じです)直訳すると「玉を持つ」

ですが「舞踏会を行う」という意味で使います。舞踏会は楽しいことなので、舞踏会みたいに「盛り上がった、とても楽しい」という意味があるフレーズです。



町にあふれる「大きなモノ」

看板のように迫力満点

大きなモノは、都市の中じゃなくて高速道路や田舎の町にあります。レストランや店、動物園などを目立たせるための看板みたいなものになります。例えば、有名な「The Big Merino (羊の種類)」とは、コンクリートで作られた15.2メートルの牡羊のオブジェがある羊毛の店です。ヒュームハイウェイという高速道路の近くにある、観光客が巨大な牡羊につられて店に入っていました。しかし、高速道路が短くなって、牡羊の店の近くを通らなくなったのをきっかけに店の売り上げはぐんと下がってしまいました。結局、オーナーたちは店と牡羊と一緒に新しい高速道路の近くに引っ越しました。

観光スポットとしても大活躍

店の売り上げだけではなく、大きなモノは観光にも有益です。オーストラリアは、都市間の距離が遠いので旅に時間が掛かります。飛行機は料金が高く、都市外の電車は遅く日本に比べて鉄道があまり広がっていないので、一般のオーストラリア人は車で6~7時間かけて旅行します。車で行くと、大きなモノが目印みたいになります。旅行の思い出に大きなモノと写真を撮ることも人気です。

思い出のある大きなモノを紹介

私が知っている「大きなモノ」は二つあります。1つ目は私が住んでいたウォーホープにあった「The Big Bull」

という14メートルの牡牛です。牡牛の中には牛乳と牛肉の博物館があって、外にはレストランと子牛、子羊などのふれあい動物園がありました。牡牛の目は窓になっていて、その窓



▲ The Big Bull

から農場の景色を見た思い出が強く残っています。残念ながら2000年代に閉園して、取り壊されました。ウォーホープの歴史のかけらなので閉園しても牡牛はずっと残っていたら良かったと思います。

2つ目は「The Big Banana」です。ニューサウスウェールズ州の北にはバナナの畑が多くて「The Big Banana」という遊園地やレストラン、お店があります。もちろん、大きなバナナの像が道路からはっきりと見えます。ここはウォーホープからクィーンズランドに行くときの休憩スポットとして大人気です。しかし、私は子どものころバナナが苦手だったので、バナナの入っているものばかりのメニューを見たときに泣いてしまいました。

大きなモノは、オーストラリアの一つの面白い文化です。この文化に誇りを持っている人が多く、最近では「大きなモノ巡り」の旅行をして、SNSに自撮りした写真をアップロードする人もいます。

※ページ内のイラストは、テュリンが描いています